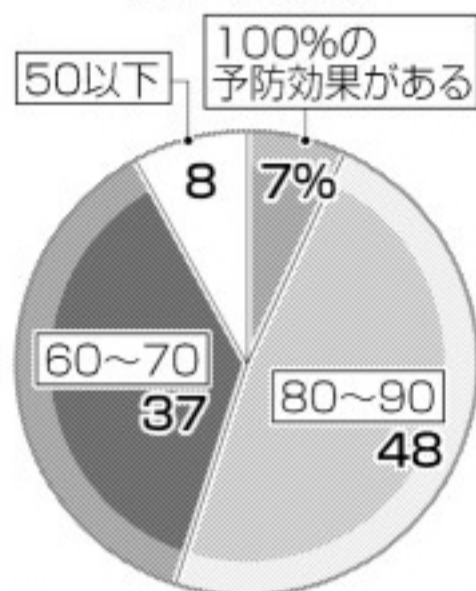


子宮頸がんへの認知度アップも…

ワクチンの効果 過信は禁物

子宮頸がん
予防ワクチンの効果に
対する認識



(ティール&ホワイトトリボン)
プロジェクトの意識調査

女性の間で子宮頸がんや
その予防ワクチンに対する
認知度が上がる一方で、半
数を超える人がワクチンの
予防効果を過度に高く評価
していることが、子宮頸が
んの啓発に取り組む一般社
団法人「ティール&ホワイト
トリボンプロジェクト」(東
京)の意識調査で分かった。
プロジェクト関係者は
「予防効果は100%では
まず「子宮頸がん」とい

接種後も検診不可欠



う言葉については99%の人
が聞いたことがあると答
え、昨年(99%)と同じく、
ほとんどの人が病名を知っ
ていた。

子宮頸がんが20~30代の
若い女性に増えていること
は85%が知っており、昨年
の84%からほぼ横ばい。唯
一予防が可能ながんである
ことを知っている人は76%

検診の必要性を強調する上坊敏子
センター長(左)と河村裕美・テ
ィール&ホワイトトリボンプロジェ
クト理事長=東京都千代田区

(昨年71%)、ヒトパピロ
ーウイルス(HPV)へ
の感染が発症の原因である
ことを知っている人は59%
(同52%)で、認識の高ま
りがうかがえた。

ワクチンの存在について
も78%(同72%)が知って
いると回答。同プロジェク
トは「ニュースなどでたび
たび取り上げられたことが
影響した」と分析している。

一方、ワクチンの感染予
防効果について正しく「60
~70%」と答えた人は37%
にとどまり、「80~90%」
が48%、「100%」が7
%で、過半数が効果を過信
していた。

この結果に、上坊敏子・
社会保険相模野病院婦人科
腫瘍センター長は「ワクチ
ンさえ打てば、検診を受け
なくてよいと考えられると
非常に危険だ」と懸念を示
した。